

京都検定 よもやま話

第17回

京都検定講演会講師による「よもやま話」。
 京都検定を通じて、京都の魅力を再発見しましょう。

辰年スタート！龍にあやかり、 上昇気流に乗ろう ～2024～

今年、令和6年は辰年。1月から3月まで実施される「京の冬の旅」（主催：京都市観光協会）のテーマも「辰年のご利益 京の龍めぐり」です。龍は空想上の動物で、強面なのに我々には親しみがあります。寺社の天井や襖、手水舎の水口、建物の鬼瓦、美術館で、龍に出会うこともしばしば。今冬は暖かくして、縁起の良い龍から今年の上昇運をいただきに出掛けましょう。

まず龍は、雲を自在に操り、雨をもたらす、火から守ってくれると



龍が臥す姿を象った平安神宮の臥龍橋

されています。お馴染みの妙心寺、建仁寺、相国寺等に見られる大迫力の天井画の龍。これらの多くは「法堂」の天井に描かれています。

この「法堂」はご住職が仏法を説く場所。龍は仏法を聴く耳を持ち、仏法の雨を降らせ、導きを助力する役割も担っています。龍の下で仏に手を合わせる我々は、その場にご住職が居合わせずとも、教えを全身で受け、龍と目が合ったり、手を叩いて龍の鳴き声を聞いたりしながら、仏との縁を結んでいます。

さらに龍は、建物を飛び出して外にもいます。「龍」の字がつく池や滝、橋、建物の下には龍穴があるという話も聞きます。では庭園にある「龍」を探してみましよう。善峯寺には国の天然記念物に指定の「遊龍松」、天龍寺の特別名勝・曹源池にある「龍門の滝（龍門



塩原直美
 京都観光
 アドバイザー

瀑）は鯉が登って龍になる登龍門の故事をなぞらえています。平安神宮の中神苑・蒼龍池にある「臥龍橋」は天正年間に造営された三条・五条両大橋の橋脚を再利用。池に置かれた石柱を飛び石として渡ることができます。これは龍の背を渡りながら、足元の水面に映る雲間の空を舞っているような感覚で我々を楽しませる仕掛けなのです。さらにスケールを大きくすると、宇治・萬福寺は境内全域で「龍」を表し、そして究極は四神相応の地の東を守る「青竜」である鴨川でしょう。

我々は日常に溶け込んでいる龍に親しみ、楽しさを覚え、そして実は龍に守られて暮らしているのかもしれないですね。

※「京都観光文化検定試験」、「京都検定」およびそのロゴマークは、京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。

第23回京都・観光文化検定試験を実施しました！

昨年12月10日に第23回京都検定を実施し、8歳から92歳までの老若男女計4775名の方に受験いただきました。過去の本コラムでもご紹介した家康伊賀越えや京都一周トレイル®、新選組をはじめ、1級では今回のコラムで取り上げた「京都の龍」等、多彩な切り口で京都について出題しました。受験された皆様、お疲れ様でした！合格発表は1月26日（金）です。



▲ 試験会場の様子